

職人の技と産業



“渋”の気品を絹に宿す

名古屋友禅

7代尾張藩主徳川宗春の頃(1730~39)、京都などの絵師、友禅師が往来して友禅技法を伝えたことに始まるといわれています。宗春失脚後は尾張藩元来の質素な気風に戻り、京都の多彩明華、加賀の五彩繊細に対し、名古屋は色数を控えた渋い単彩濃淡が特徴となっています。経済産業省による国指定伝統的工芸品。

体験 友禅工房 堀部
名古屋市区西區万代町1-28 ☎052-531-9875(要事前予約)
URL <http://www.horibekoubou.com/>



熟練の技が
手元に広がる

名古屋扇子

名古屋扇子は宝暦年間(1751~64)に京都から現在の西區幡下付近に移り住んだ井上勘造父子によって始められたとされています。その後、扇の両面に渋をひいた「名古屋扇子」がつけられました。名古屋は京都と並ぶ屈指の扇子産地で、全国シェアの約3割を占めています。

体験 末廣堂
名古屋市区西區新道1-20-14 ☎052-562-2267(要事前予約)
URL <http://suehirodo-sensu.co.jp/>



揚げてよし、飾ってよしの
粋な万能凧

和凧

江戸時代から脈々と受け継がれた職人技で名古屋は和凧の一大生産地です。受け継いできた伝統技法を用い、美しさと丈夫さ、揚力に優れた和凧はインテリアとしても人気があります。名古屋の特産は扇凧です。

体験 凧茂本店
名古屋市区西區押切二丁目2-2-10 ☎052-522-5261(要事前予約)
URL <http://www.tacomo.com/>



伝統という灯を絶やすことなく
今に伝える

名古屋提灯

室町時代にさかのぼる提灯づくりは、江戸時代には盆供養に提灯を使う風習が生まれ、盛んに作られるようになりました。名古屋提灯も歴史の古い業者が多く、和紙を通しての柔らかな光が欧米にも好まれ、明治初期には貴重な輸出品として全国一の生産を誇りました。



体験 雅創作工房
名古屋市区西區上名古屋1-11-5 ☎052-528-5360(要事前予約)
URL <http://www007.upp.so-net.ne.jp/miyabisk/>



拠点となる産業観光施設



トヨタの研究と創造の精神に触れる

トヨタ産業技術記念館

ここは1911年に豊田佐吉が自動織機開発のための実験工場「豊田自動織布工場」を開設し、その後、旧豊田紡績本社工場となった場所です。(株)豊田自動織機製作所やトヨタ自動車工業(株)の設立総会が開催されるなど、トヨタグループ発祥の地でもあります。大正時代の赤レンガの工場建屋を保存・活用し、1994年に繊維機械と自動車の産業と技術の変遷を示す産業技術記念館が設立されました。

記念館建物や織機等の所蔵物は、経済産業大臣認定の近代化産業遺産。



1 エントランスにある環状織機(デモンストレーションあり) 2 自動車のしくみや生産技術を示した自動車館 3 大正時代に建てられた紡績工場、建屋をそのまま使用した繊維機械館 4 パートナーロボットによる演奏

体験 トヨタ産業技術記念館
名古屋市区西區則武新町4-1-35 ☎052-551-6115
開館時間/9:30~17:00(入場受付16:30まで)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
URL <http://www.tcmiit.org/>



文化と出会い、森に憩う。



ノリタケの森

1904年、日本陶器合名会社(現ノリタケカンパニーリミテド)が、この地に洋食器工場を建設。数々の苦難を乗り越え、1914年に日本で初めて白色硬質磁器のディナーセットの製造に成功しました。その後、高圧碍子や衛生陶器の研究を開始、日本ガインとTOTOの誕生につながりました。まさにこの地は近代陶業発祥の地といえます。ノリタケが創立百周年を記念して、2001年に本社敷地内に整備したのが「ノリタケの森」です。広大な敷地には、四季折々の樹木が植えられ、訪れた人々は豊かな緑に囲まれて憩いの時間を過ごしています。

旧工場跡6本煙突や旧精工工場等は、経済産業大臣認定の近代化産業遺産。



1 職人による給付けをはじめとする陶磁器の製造工程の見学が可能 2 旧工場跡6本煙突 3 給付け体験コーナー 4 ミュージアムでは歴史的・文化的価値の高い「オールドノリタケ」をご覧いただけます

体験 ノリタケの森(クラフトセンター・ノリタケミュージアム)
名古屋市区西區則武新町3-1-36
開館時間/10:00~17:00 ☎052-561-7114(クラフトセンター)
休館日/月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始
URL <http://www.noritake.co.jp/mori/>



物語のある商店街や街並み



賑わいと生活の密なる空間

円頓寺商店街界隈

名古屋の城下町形成とともにできた街であり、随所にその面影を残しています。商店街に名づけられた圓頓寺をはじめ、慶栄寺、専修寺などの仏閣や「清須越し」で名を移した五条橋、四間道と土蔵群、旧商家や屋根神さま、守子地蔵尊など、歴史資源が今なお存在します。

また、歴史ある商店街では下町情緒を感じながらお買い物や食べ歩きを楽しめるほか、七夕まつりをはじめ、さまざまなイベントが開催されています。



生活の知恵が生んだ
“まちかど文化財”

屋根神さま

その名のとおり屋根にまつられている神さまのことです。地域の守り神として町内や隣組などの小組織で守られており、もともと神さまをまつる地所がなかったことから屋根の上や軒下につまつたのがその始まりとされています。名古屋市区全体で約113か所あると言われ、うち西區に53か所、そしてこのエリアに約40か所と集中しています。



歴史と都心のコントラスト

蔵が並ぶ四間道

「清須越し」によってつくられた商人町で、元禄13年(1700年)の大火の後、町中の延焼を避けるため道幅を四間(約7m)に拡張したことからその名がつけられたとも言われています。堀川の水運を利用して米穀、塩、味噌、酒、薪炭などを城下町へ供給する商家が軒を並べて繁栄しました。四間道の東側には石垣の上に土蔵群、西側には町屋群からなる町並みを今なお見ることができます。名古屋市区町並み保存地区。



時代を越え、
人々が行き交った道

歴史街道 美濃路

美濃路は東海道宮宿(熱田区)と中山道垂井宿(岐阜県垂井町)をつないだ街道です。宮宿と桑名宿の間が海路で天候に左右される東海道より、陸路である美濃路がよく利用されました。1622年、庄内川に枇杷島橋が架けられてからは、枇杷島の青果市場(清須市西枇杷島町)と城下との往来で賑わいを見せていました。堀川沿いには、清須越しの商家が今なお残されており、歴史的町並みを見ることができます。